

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

今年度、4月19日に行われた「全国学力・学習状況調査」では、全国の小学6年生と中学3年生を対象に「国語」「算数（数学）」「理科」の学習状況と児童・生徒の学校や家庭での生活実態についての調査が行われました。

今回の調査結果は、別府西っ子の学力の一部ではありますが、届いた結果を基に現状を分析してまとめましたので、その概要をお知らせいたします。

<学校生活・家庭学習に関して>

【指導の成果が現れている点】

○学級活動や授業で積極的に話し合い活動に参加し、話し合ったことを活かして生活すること

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答した児童が多くいました。自分の考えを伝えると共に、友達の見解にも耳を傾け、話し合い活動の中で高め合っていることが分かります。

【改善が必要だと考えられる点】

○1日のテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）の時間、および1日に携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間について（学習する時間やゲームをする時間は除く）

「月曜から金曜、1日にどれくらいの時間ゲームをするか」という質問に対して、19.8%の児童が4時間以上、15.6%の児童が3時間以上4時間未満、21.9%の児童が2時間以上3時間未満、26%の児童が1時間以上2時間未満と回答しました。

SNS・動画視聴については13.5%が4時間以上、7.3%が3時間以上4時間未満、14.6%が2時間以上3時間未満、17.7%が1時間以上2時間未満と回答しました。

今回の調査からも、どちらについても使用時間が短い児童の方が教科の平均正答率が高い傾向が見られるという結果が出ています。また、ゲームやスマホの長時間使用は生活リズムを崩したり、視力の低下を招いたりすることもあります。これらの時間を読書の時間や学習の時間、あるいは体を動かす時間などに充てられるよう学校でも呼びかけていきます。ご家庭でも利用時間についてのルールを決めていただき、声かけをしていただきますようよろしくお願いいたします。

<学力に関して>

【指導の成果が現れている点】

国語

○文章で答える難しい問題に対しても、しっかりと考え、自分の考えを書くこと。

「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」という質問に対して、多くの児童が「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答しました。難しい問題に対しても、試行錯誤しながら自分の考えを導き出そうと、積極的に取り組む姿勢が表れています。

算数

○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由について記述すること。

カップケーキが縦に7列、横に3列の21個箱に入り、1470円で売られているという場面で、7個分の値段が「 $1470 \div 3$ 」で求められる理由について言葉と数を使って記述できた児童が多くいました。

理科

○数人から提起された問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選択すること。

「ナナホシテントウは、昆虫なのだろうか」「ナナホシテントウはどんな所をすみかにしているのだろうか」「ナナホシテントウは、昆虫から成虫になるまでに、食べ物は変わるのだろうか」という3つの問題が提起され、それらの問題を解決するために必要な観察の視点を基に適切に観察・記録されているものを正しく選択できた児童が多くいました。

【指導の工夫が必要だと考えられる点】

国語

○適切な速さで文章を読み進め、問題を解き切ること。

後半の問題ほど、無解答が目立ちました。国語の出題に関する「解答時間は十分でしたか」という質問に対しても、34%がやや足りなかった、11%の児童が全く足りなかったと回答しており、時間内に最後まで解答できなかった児童が多いことが分かります。

日ごろから、文章量の多い読み物を読み、どのようなことが書かれているのかをまとめる力をつける必要があると考えます。授業では、初読で物語のあらすじや説明文の要旨を捉える学習を積み重ねたり、読書活動では、学年に応じた文章量の書籍を推奨したりするように取り組んでまいります。

○物語文の中の表現の効果について考えること。

「ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよいでいるだけだった。」という物語文の最後の一文が読者に与える表現の効果を選択する問題で、適切な選択肢を選べなかった児童が多くいました。表現の一部分だけを捉え、物語の全体像と関わらせることができなかったと考えられます。

表現の効果を捉えさせるために、優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を意識させながら読むことを取り入れ、人物像や物語などの全体像を具体的に想像する言語活動を取り入れてまいります。

また、思考力、判断力、表現力を育てるために、日頃から、児童が自分の考えを発言する際には、根拠や理由も述べるように指導してまいります。

算数

○果汁 20%のジュース 500mL が 250mL に減ると果汁の割合がどうなるかについて

実際は、ジュースの量が変わっても果汁の割合は変化ませんが、「ジュースの量が半分になると果汁の割合も半分になる」と解答した児童が多くいました。

日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解できるようにすることが大切であると考えます。果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けると、飲み物は1/2になるが、一人分に含まれている果汁の割合(味)は変わらないというように実際の場面を想起させながら割合について理解させてまいります。

理科

○実験結果をまとめた表を読み取ったり、実験結果を適切にまとめた表を選択したり、予想したことを適切に表現したグラフを選択したりすること。

水、砂糖水、食塩水がこおり始める温度とすべてこおった温度をまとめた表から、温度の違いに気づき、砂糖水や食塩水がこおる温度は水がこおる温度よりも低いとまとめた文を選ぶことができなかった児童が多くいました。

また、鏡ではね返した日光を重ねるほど、的の温度は高くなるか確かめる実験結果を「実験開始時の温度」「鏡の枚数」「同じ時間が経った時のそれぞれの温度」が表現された適切な表を選ぶことができなかった児童が多くいました。

さらに、夜の気温の変化について「夜は太陽が出ていないから、晴れていても、くもっていても、気温は変化しない」という予想を適切に表現したグラフを選択できなかった児童が多くいました。

問われていることは何かを捉えて資料を読み取る練習をしたり、実験を行った際、問題に対する結果をまとめるために必要な情報を確認したり、数量・変化の大きさの特徴を捉えさせながらグラフを作成したりすることに取り組ませてまいります。